

4 太田正雄(木下杵太郎)の医学ノート について

○黒川一郎、¹⁾島田保久、²⁾吉田 信³⁾

第九十七回本学会において、頭書の医学記録のうち、内科学関連のもの紹介を行った。本会においては病理学の山際勝三郎教授の講義記録の紹介を行う。山際は千九百十五年発ガン理論を発表して注目を浴びたが、記録はその数年前の千九百八年から九年にかけてのものである。

そのころの木下の日記では(千九百九年前後と思われる)あまり医学生としての日常を記載したものはなく、当時既に文筆家あるいは画学生として世に認められ、その当時の活躍中の当事者達との交遊が目立っている。

山際のノートで明らかなのは、病理学示説と病理学総論と思われるもの二冊である。

一・示説記録について

講義を受けた日付は千九百八年十一月から同九年十二月まで断続的に記載され、八年四回、九年六回計十回であった。

示説症例は七十四例で、年齢ゼロ歳から六十六歳までである。

病名の明らかなものを恣意的に分類すると、

循環器系…僧帽弁膜症。連合弁膜症。大動脈狭窄症。

泌尿器系…尿毒症性腎炎。慢性腎炎。萎縮腎。全身浮腫。

腫瘍系…小脳腫瘍。卵巣腫瘍。後腹膜腫瘍。肺癌。椎体

骨腫瘍。carcinoma hignnori dextra胃癌。食道癌。

呼吸器系…カタル性肺炎。両側性肺結核。結核性髄膜炎。

胸膜炎。肺気腫。化膿性髄膜炎。胸膜炎。

神経系…片麻痺。Tades dorsalis。椎体カリエスによる神経障害。脳出血。脳底髄膜炎。運動性失語症。

消化器系…肝梅毒。慢性腸カタル。

黄疸(急死)。胃カタル。急性虫垂炎。

その他…脚気。帝王切開。

死亡年齢が今日から見るとかなり若年であり、疾病も

結核性疾患が多くを占めていることが示される。一回の

提示症例数がかなり多いのが特徴的であった。

二・病理学総論について

総論の開始部に病理学の概論的説明があるが、不明確なところが多かった。

以下流れに沿って記述すると、

A…免疫療法、

B…血清療法。先天性免疫、受動免疫などの記述がみられる。

以下の記述は分類の大きな区分けはなく、並列的にのべられている。列挙すると、

* 総論的病因論

* 肥大…細胞分裂の理論など、当時の細胞理論に沿った記述がみられる。

* 核・細胞分裂の異常。多極的分裂、非対称的分裂、分裂不全、染色体喪失、再生。

* 軟骨・骨の再生 (Regeneration)

* 諸種組織の再生

* 血液の発生。赤血球。白血球。

* 軟骨の再生。

* 諸種組織の再生…外皮、筋肉、神経、グリア細胞。

* 老人性萎縮、老年者の動脈硬化像を例としてあげる。

* 変性の諸種像…混濁膨化。脂肪変性、グリコゲン変性、病的上皮角化症。

* 組織壊死。局所的組織壊死。乾酪化。

* 循環障害…局所全身の圧上昇に伴う動脈性充血、圧上昇。

* 動脈性高血圧の症状。

以上のように未だ疾病の分類以前の病理学的総論の部分の記述であるが、免疫理論などが既に論じられていたのが注目された。

(1) 前札幌医科大学

(2) 島田外科整形外科医院

(3) 北海道医師会会長